

Title	企業活動・業績における「経営理念」の意義
Sub Title	
Author	大川智之(Ookawa, Tomoyuki) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第819号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0819">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0819</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 大川 智之

主査 矢作 恒雄

副査 青井 倫一

田中 滋

所属 矢作 恒雄 研究室

## 企業活動・業績における「経営理念」の意義

一般的に「経営理念」の重要性はよく言われるところであるが、その企業活動および業績への関係を実証している研究は少ない。当研究では、「経営理念」と企業活動・業績の理論研究を行い、企業業績と「経営理念」の関係の実証を試みた。

文献サーベイにより理論研究を行ったところ、1)「経営理念」の環境適合度および企業構成員間での共有化度の高い企業ほど業績がよい、2)環境適合度および共有化度はリーダーシップおよび共有化サポートシステムの有無による、の2点が推論された。これらの理論的基礎は、O. E. ウィリアムソンの取引費用の概念、そして、P. セルズニックのリーダーシップ論による。

理論研究から、基本仮説として、『「経営理念」が環境に適合しており、かつ、共有化されている企業は、業績のよい企業である。』が導き出された。さらに、基本仮説は検証のために次の2つの作業仮説に分類された。

H1：「経営理念」の環境適合度および共有化度が平均より高い企業は、ROAが平均より高い。

H2：「経営理念」の環境適合度および共有化度が平均より高い企業は、売上高増加率(GS)が平均より高い。

H1・H2をモデル化し、アンケート調査により環境適合度および共有化度を計量化して重回帰分析により仮説検証を行った結果、H1・H2とも棄却された。理由としては、(1)標本数不足、(2)アンケート調査内容不足、(3)理論上の問題が考えられる。

「経営理念」が企業に存在する限り、これらの問題を再考して企業活動・業績との関係を研究することは今後も決して意義のないことではない。